

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年9月5日現在

機関番号：34427

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K21440

研究課題名(和文)南アジアにおけるイスラーム改革思想の形成についての研究

研究課題名(英文)The Formation of Islamic Reformism in South Asia

研究代表者

石田 友梨(Ishida, Yuri)

大阪経済法科大学・公私立大学の部局等・准教授

研究者番号：60734316

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：南アジアにおけるイスラーム改革思想の中心的人物であったシャー・ワリーウッラー・ディフラウィーを対象とし、彼の思想と師弟関係について考察した。第一に、ディフラウィーの自伝に基づき、彼とアラビア半島の学者たちの関係と、それぞれの学者たちの関係をネットワークとして可視化し、学問の継承経路や移動経路を明らかにした。第二に、霊魂論に関するディフラウィーの著作を検証し、師弟関係の繋がりと思想の継承が必ずしも一致しない点を指摘した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

イスラーム法が適用される社会の実現を目指すイスラーム改革思想は、アラビア半島のイスラーム法学者たちによって生まれたとされている。本研究の学術的意義は、アラビア半島と南アジアの間のイスラーム改革思想の継承と、南アジア独自のイスラーム改革思想の継承の交点について、ネットワーク分析を導入しつつ考察した点にある。

また、現在世界各地でイスラーム法の適用を求めるイスラーム教徒が増えている。イスラーム改革思想の形成と展開を詳らかにすることは、国際政治や地域紛争といった時事問題への深い理解をもたらすという点で、社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：To clarify the formation of Islamic Reformism in South Asia, this study investigates the thoughts and master-disciple relationship of Shah Wali Allah al-Dihlawi, who played an important role in it. First, his relationship with the intellectuals in Arabian Peninsula, and relationships among them were visualized as networks based on the descriptions of his autobiography. It shows the academic inheritances and movement routes of Islamic Reformists. Second, a study on al-Dihlawi's works on psychology concludes that his master-disciple lineage will not assure the succession of his master's opinion.

研究分野：イスラーム思想史

キーワード：イスラーム改革思想 霊魂論 デジタル・ヒューマニティーズ インド アラビア半島

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

イスラーム改革思想は、18世紀のアラビア半島でムハンマド・イブン・アブドゥルワッハーブ(1703 - 1791)が率いたワッハーブ運動として政治運動化し、サウディアラビア王国の建国へとつながった。イスラーム法の適用される社会の実現というイスラーム改革の目的は、現在世界各地で顕在化し、時に過激化するイスラーム主義運動にも継承されている。イスラーム主義運動の最も盛んな地域のひとつである南アジアにおいては、イスラーム改革思想がアラビア半島から伝達されたものとする説と、南アジア独自の政治社会状況により生まれたものとする説が提唱されている。

2. 研究の目的

上記の2つの説をふまえ、南アジアにおけるイスラーム改革思想の形成について明らかにすることを本研究の目的とした。ワッハーブ運動と同じ時期の南アジアにおいても、イギリス植民地政府が「インドのワッハーブ運動」と呼んだ、シャー・ワリーウッラー(1703 - 1762)の思想を継承するイスラーム改革運動が行われた。シャー・ワリーウッラーはアラビア半島への留学経験をもつ一方、イスラーム法を適用した社会統治をムガル皇帝に訴えたアフマド・スィルヒンディー(1564 - 1624)の思想の継承者であるとされている。シャー・ワリーウッラーを中心に師弟関係を分析し、アラビア半島と南アジアの相互交流によってイスラーム改革思想が形成されていく過程を描くことを目指した。

3. 研究の方法

シャー・ワリーウッラーの自伝などから16 - 18世紀アラビア半島の学者についての記述を収集し、データベースを構築した。学者たちの生没年、出身地、移動経路、師弟関係、習得学問、著作等をデータ化し、Gephiなどの専用ソフトを使用することで学者たちのネットワークを視覚化した。ネットワークを分析することにより、学者間の思想伝承経路を整理し、特定の学者のネットワークにおける影響力などを数量化した。

また、学者たちの著作を比較することで、ネットワーク分析から推定される思想の継承が裏付けられるか確認した。これらの研究方法により、南アジアにおけるイスラーム改革思想の形成について考察した。具体的には、以下の3点から研究を進めた。

(1) 16 - 18世紀アラビア半島についての伝記資料分析

ムハンマド・イブン・アブドゥルワッハーブとシャー・ワリーウッラーは共にアラビア半島で学び、共通の師をもつ。ムハンマド・イブン・アブドゥルワッハーブは師に反して、イスラーム神秘主義を否定した。これはムハンマド・イブン・アブドゥルワッハーブの個人的性格によるものと考えられてきたが、シャー・ワリーウッラーの自伝には、当時アラビア半島でイスラーム神秘主義を肯定する弟子たちと否定する弟子たちとの間に争いがあったとの記録がある。シャー・ワリーウッラーの自伝以外の伝記資料についても調査し、16 - 18世紀アラビア半島における学問的状况について考察した。

(2) ムハンマド・イブン・アブドゥルワッハーブ、シャー・ワリーウッラー、アフマド・スィルヒンディーの法学についての比較

イスラーム改革思想の特徴となるイスラーム法学の「盲従」について、ムハンマド・イブン・アブドゥルワッハーブとシャー・ワリーウッラーの議論を比較した。また、アフマド・スィルヒンディーはアラビア半島への留学経験はないものの、法学の師弟関係を遡ればアラビア半島へとつながる。アフマド・スィルヒンディーの法学的見解についても調査し、地域を超えた3者の法学的ネットワークについて考察した。

(3) アフマド・スィルヒンディーとシャー・ワリーウッラーのイスラーム神秘主義思想についての比較

アフマド・スィルヒンディーは、シャー・ワリーウッラーとイスラーム神秘主義の師弟関係が繋がっている。イスラーム神秘主義についての両者の著作を比較し、師弟関係のつながりに沿った思想の継承がみられるか検証した。

4. 研究成果

シャー・ワリーウッラーの自伝に基づき、彼がアラビア半島留学時に師事していたアブー・ターヒルと師弟関係のつながりのある13人に注目したネットワーク分析を行い、学会発表や論文執筆を行なった。特定の学者のネットワークにおける影響力が学問分野によって変化すること、学問の中心地が時代によって変遷することなどを、学者たちのネットワークを視覚化することによって明らかにすることができた。また、数値化できない記述内容をネットワークに反映することが困難であるなどの課題も明らかとなった。さらに、師弟関係にある学者たちの著作を比較してみると、思想が継承されたとみなせない例もあることが指摘できた。

本研究開始当初、人的交流が思想伝承と一致すると想定していた。ネットワーク分析と著作からの裏付けという2段階の方法を採用した本研究の成果をふまえ、南アジアにおけるイスラーム改革思想の形成について、より精緻な考察を今後も進めていきたい。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

石田 友梨、18 世紀インドにおけるカリフ制社会論—イスラーム改革思想家シャー・ワリーウッラーの『究極のアッラーの明証』より—、アジア太平洋討究、査読有、第 25 号、2015、pp. 49 - 68

<http://hdl.handle.net/2065/46849>

石田 友梨、インドにおけるイスラーム神秘主義の靈魂論—シャー・ワリーウッラー・ディフラウィーを例に—、International Journal of the Asian Philosophical Association、査読有、Volume 9、Issue 1、2016、pp. 111 - 131

<http://www.asianpa.net/assets/upload/articles/8PeoOprcMFC3kOHw.pdf>

石田 友梨、イスラーム研究におけるデジタル・ヒューマニティーズの活用に向けて—シャー・ワリーウッラー『ハラマインの師たちの瞳孔』に基づく十七 - 十八世紀ハラマインの学者ネットワーク分析—、イスラーム地域研究ジャーナル、査読無、第 8 号、2016、pp. 25 - 36
https://www.waseda.jp/inst/ias/assets/uploads/2016/10/IsuramuChiikiKenkyuJanaru_8_Ishida.pdf

〔学会発表〕(計2件)

石田 友梨、萩原 淳、17-18 世紀ハラマインにおける師弟関係—シャー・ワリーウッラーの伝記情報のネットワークによる視覚化とその分析—、日本中東学会第 31 回年次大会、2015

ISHIDA Yuri, The Rise of Islamic Reformism in the Seventeenth and Eighteenth Centuries: Scholarly Network Analysis and Visualization with Gephi, Japanese Association for Digital Humanities Conference 2015, 2015

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号(8桁)：

(2)研究協力者
研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。